

新しい出発・新しい決意を！

新年明けましておめでとう。今年は皆さんにとってははいよいよ新しい出発を前にした節目の年です。多くの皆さんはいよいよ社会へ巣立つ年となりました。また進学する人も新たな進路に期待で胸ふくらませていることと思います。まだ進路の決まらない人も何人かいますが、そうした人にとってはまだ気の抜けない時がしばらく続きそうですが、何とか一日も早く進路が決まるよう係としても応援していきたいと思います。



一年の計は元旦に有りとも言われますが、皆さんはこの正月にどんな決意をされたでしょうか。節目の時を迎え、こうした時にしっかりとした節を作らないと次のステップに強く伸びていくことができません。新たな節を作るとは、これまでの自分を振り返ると同時に、これからどう生きていったらよいのかをじっくり考え自らの今後の計を練ることです。それを十分にせず、これまでの延長のようなつもりでいると節を結ぶことができなくなります。

ことしの NHK の大河ドラマは坂本龍馬をテーマとしています。幕末から明治維新にかけ日本の新しい国作りに関わったのは西郷隆盛、大久保利通等々ほとんどが20代から30代の若者達です。坂本龍馬が亡くなったのは31歳です。社会が大きく変わろうとしたそのとき若者達が国の先行きを憂い立ち上がり、国を動かしたのです。しかも他国の革命のような多くの血を流すこともなく社会を大きく変えたのです。日本の歴史の中でも特異な時代だったように思われます。



今世の中は大変難しい時代を迎えています。こうした時代を変えていくためには若者のパワーが求められています。不景気風に若者までちんやりとしてしまうのではなく、もう一度幕末から明治にかけての若者達の心意気を学び取り、それぞれがそれぞれの場で活躍していってくれることを願いたいものです。手中のゲーム機に夢中になっているような、小さな自分の世界だけにとどまることなく、大きな志を持ち、広く世の中を見つめつつ、これからのそれぞれの生き方を考えていって欲しいものです。

反省と後悔では何も生まれない

人間はしばしば反省をする。「あの時こうすればよかった、ああすればよかった」と。それは後悔でしかない。そこで何を悔い、そこから何を学びとり、どう改善しようとするのかそれがないと人間的成長はない。

ただし、反省した結果「明日からやろう」「来年になったらしっかりやろう」ではだめ。今からその反省を生かそうとしなければ、結局同じことの繰り返しとなる。

また、いつも後悔ばかりしている後ろ向きの発想では何も生まれない。切り口を変え、前向きな発想で、未来に夢を持ち、次の一歩を歩き出したい。